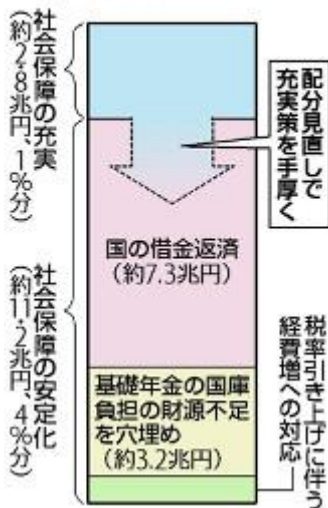


大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3904号 2017.9.18 発行

◆消費税率10%への引き上げ時の使い道と見直しのイメージ



消費税増収分「社会保障の充実」に...首相訴えへ

読売新聞 2017年09月18日

安倍首相は次期衆院選で、2019年10月の消費税率10%への引き上げに合わせ、増収分の使い道を「国の借金返済」から「社会保障の充実」に振り向けることを国民に訴える考えだ。

12年の与野党合意に基づく社会保障・税一体改革では、消費税5%からの引き上げ分は全て社会保障に充てられている。

しかし、10%への引き上げ時に、子育てや介護などを充実させるための財源に回るのは、このうち1%分(約2.8兆円)にとどまる。残る4%分(約11.2兆円)は、社会保障制度を安定化させるためとして、実際には国の借金返済などに充てられる。14年4月の8%への引き上げ後の政府予算もおおむねこの配分で組み立てられており、首相は「増えた税収の8割を借金返済に使われた」と周囲に不満を漏らしてきた。

高齢者に迫る「大負担増時代」 じわり拡大、全体見えず 編集委員・清川卓史

朝日新聞 2017年9月18日

医療や介護の負担増が相次いでいる



65歳以上の高齢者人口が推計で3500万人を超えた。医療や介護といった社会保障制度は見直しを迫られ、支払い能力に応じて高齢者にも負担を求める流れが続く。さまざまな負担が積み重なる「大負担増時代」を迎え、高齢者の家計はどんな影響を受けるのか。丁寧な検証が欠かせない。(編集委員・清川卓史)

高齢者の負担増は、医療や介護で今年度から来年度にかけて段階的に進んでいく。今回の制度見直しがほぼ実施される来年8月時点の負担は、今年3月時点と比べてどうなるのか。

東京都内で一人暮らし、年金収入が年211万円ある78歳の男性。こんなモデルを想定してみる。

持病があって通院を繰り返し、さらに急病で入院。医療費が月60万円かかったとする。自己負担割合は1割だが、「高額療養費」の制度で負担する月額の上限は決まっている。この男性の所得と年齢では、今年8月に4万4400円から5万7600円に上がった。

75歳以上が対象の後期高齢者医療制度の保険料も中程度の所得層で段階的に上がっている。この男性の所得なら月2千円以上の値上げに。医療費と合わせ、負担月額は計1万5千円以上増える計算だ。

医療だけでなく、介護の負担も増す。

次に、年金収入が年290万円で82歳の夫と年80万円で80歳の妻の夫婦世帯のモデルを想定する。

夫は訪問介護や通所介護などのサービスを月25万円分利用。自己負担割合は2割だが、「高額介護サービス費」で月額に上限がある。この上限も今年8月に見直され、この夫の所得なら3万7200円から4万4400円に上昇した。

妻はこの月、体調を崩して複数の病院に通い、20万円の医療費がかかった。自己負担の月額上限は1万2千円から段階的に1万8千円になる。夫婦では、合計約1万3千円の負担増だ。

これらは社会保険労務士の井戸美枝さんの協力を得て試算した結果だ。いずれのモデルも中程度以上の所得層。医療や介護の負担が長期間にわたり重くなった場合、さらに軽減する仕組みもある。それでも月1万円余りの負担増は軽視できない。

幼稚園で2歳児受け入れ 長時間の「一時預かり」枠新設 待機児童解消へ文科省など認可方針

産経新聞 2017年9月17日

文部科学省と内閣府は、認可保育所などに入れられない待機児童を解消するため、来年度から、3～5歳児が通う幼稚園で2歳児の受け入れを認める方針を決めた。待機児童の多くは0～2歳で、2歳児を対象に長時間の「一時預かり」の枠を新たに設け、保育士の人件費などの運営費を補助する。来年度予算の概算要求で、関連費用を盛り込むよう財務省に求めている。

幼稚園は通常、3～5歳児を午前中から午後2時ごろまで預かる。夕方5時ごろまで「一時預かり」を実施しているところもあるが、保育所に比べて短時間のため、保護者が共働きの場合は利用しづらい。

文科省などは、幼稚園で3～5歳の幼児教育とは別に、保育ニーズに対応するため、2歳児を1日8時間程度預かることができるようにする。夏休みなどの長期休暇や子供が3歳になった後も継続し、保護者が新たに保育所を探さなくても済むようにする。利用料は、保育所など他の保育サービスと同水準になる見込み。

2歳児を受け入れる幼稚園は職員配置の基準を緩め、保育士を新たに多数雇用しなくても運営できるよう検討する。

幼稚園での2歳児受け入れイメージ

	現在	来年度以降
0歳		家庭内での養育
1歳	家庭内での養育	家庭内での養育
2歳		一時預かり 新設
3～5歳	幼稚園 + 預かり保育	幼稚園 + 預かり保育

政府は平成32年度末までに待機児童をゼロにする目標を掲げているが、今年4月時点で約2万6千人に上り、0～2歳が9割近くを占める。このうち2歳児であれば幼稚園児と年齢が近く、活動になじみやすいことから、受け入れが可能だと判断した。

待機児童解消に効果があると期待され、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認定こども園」は今年4月時点で5081園。前年より1080園増えたが、もともと保育所だったところが移行したケースが多く、思うような保育の受け皿拡充につながっていない。

障害のある人の作品50点 宮津で展覧会「森の美術館」 産経新聞 2017年9月18日

支援学校に通うなどしている障害のある人の作品を集めた展覧会「森の美術館」が、府立丹後海と星の見える丘公園（宮津市里波見）で開かれている。支援学校単位での発表会などはあるが、複数の学校や団体の作品を集めた展覧会は、丹後地方では初めての試みという。24日まで。

府立舞鶴、同与謝の海、同中丹の各支援学校のほか、京丹後市久美浜町の生活介護施設「かがやきの杜（もり）」など計9団体が参加。また、協力作家5人も作品を寄せており、計50点の作品が並んでいる。

舞鶴支援学校は水彩画や貼り絵など7点を展示。たくさんの文字で画面を埋め尽くした作品は見る者をさまざまな想像に誘う。与謝の海支援学校は春と夏を表現した絵手紙や水彩画など7点を、また、中丹支援学校はかき氷などを描いた4点を展覧している。

同公園のスタッフ、徳本英明さんは「豊かな発想と自由な描き方で仕上げられた作品を楽しんでほしい」と話している。

オプトニカ工房（小山市）「おけだま」 障害、年齢超え対戦

産経新聞 2017年9月18日

キャットタワーのような棚の付いた木製ポールにお手玉を投げ合い、置かれた位置で点数を競う。単純そうな遊具だが、これが意外と奥が深い。

障害児向けの教材や教具を手がけるオプトニカ工房（小山市）が開発した「おけだま」。今年2月、東京の見本市に出展、販売を開始した。車椅子利用者をはじめ障害の有無や年齢に関係なく利用でき、対戦型ゲームとして遊べる。小山市立中央図書館（同市城東）に展示されると、土曜日は順番待ちができるほどの人気に。同館では8月、小学生のゲーム大会も開いた。

●競い合い必要

遊び方は簡単。タワーに取り付けた棚やカップはそれぞれ点数が決められており、お手玉を投げ合って合計点を競う。岩倉茂弘社長（58）は「誰でも楽しく競い合えるユニバーサルゲーム。お手玉は安全で、高齢者には懐かしさも感じられる。ボウリングやカーリング、ポッチャ、輪投げ、玉入れなどの要素を“いいとこ取り”で少しずつ取り込んだ」と説明する。

相手と交互にお手玉を投げ合う対戦型では、相手のお手玉を落とすように投げたり、邪魔したりと、カーリングのような頭脳戦も。

岩倉社長は「福祉の現場では順位付けや対戦がタブー視されることもあるが、誰もが楽しく競い合うことは必要。ゲートボールをやっている高齢者も勝負に熱くなっている」。現場の声を聞いて商品を開発してきた経験を生かし、新ゲームをアピールする。

●現場の声を反映

岩倉社長は東京のプレス板金製造会社に長年勤務。取締役も務め、分社化、新工場設立のため小山市に移ってきた。その後、独立し「途中下車した土地に住み着いた」。近くの特別支援学校でボランティアに参加、小さな会社にできることに気付いた。大手企業は需要が限られた製品に手を出さないが、障害児の教育現場では必要とされているものがあるこ

とを知った。

全国に広まった同社製品の好例は「おりたたみシールド」(床置き型1万6千円、卓上型1万2千円、税・送料別)。児童1人分の机を囲い、衝立(ついたて)の役割を果たす白い板だ。

自閉症児童や落ち着きがない行動がみられる注意欠陥多動性障害(ADHD)の児童は学習に集中するため、視界を遮る場合もあるが、適切な製品はなかった。保健室の衝立を代用しても大きすぎるし、キャスターや支える部分の出っ張りで児童がつまづくこともある。教員がベニヤ板や段ボールで自作する例もあるが、見栄えも悪く、倒れやすい。

そんな現場の声を丁寧に聞き、丈夫で軽いポリプロピレン製で製造。軽量で折り畳め、全国から引き合いがある製品だ。

「教材教具を扱う問屋は当然、大手にも持ちかけていると思うが、限られた需要しかない商品をこの値段で作ることはできないだろう」と岩倉社長。小さな会社でも社会に果たす役割は大きい。

<東北の道しるべ>「豊かさ」変わる尺度

河北新報 2017年9月18日



水田に囲まれた滝沢市役所(中央)。幸福度指標をベースにしたまちづくりが進む。奥は盛岡市街地

[うちだ・ゆきこ]

1975年、兵庫県宝塚市生まれ。京大大学院人間・環境学研究科博士課程修了。甲子園大専任講師などを経て、2008年に京大こころの未来研究センター助教。11年から現職。専門は社会



心理学。10~13年、内閣府「幸福度に関する研究会」委員。

東日本大震災後、暮らしの豊かさを数値化した「幸福度指標」=？=を導入する自治体が東北でも増えている。幸福度と所得水準は相関関係にない。米国の経済学者イースタリンが「幸福のパラドックス」と指摘したように、国内総生産(GDP)の増大を追求してきた日本は今や、グローバル経済に翻弄(ほんろう)され、格差も拡大した。本当の幸せを問う先に、経済成長とは一線を画す「東北スタンダード」が見えてくる。

◎風土、絆…「幸福」地域で考える

<実践/滝沢市>

「市民の幸福感を育む環境づくり」

滝沢市は2014年の市制移行後、市政運営の根幹となる初の総合計画(15~22年度)にこううたった。早速、看板施策として幸福度指標を導入し、まちづくりに生かしている。

15年には市民約60人でまとめた幸福実感一覧表を全戸に配布。「喜び・楽しさ」「成長・学び」「生活環境」「安全・安心」「人とのふれあい」という五つの場面ごとに、幸福感を生むとされる具体的な行動を年代別に記し「やってみよう」=表=と呼び掛ける。

一覧表はさらに11の地域別計画に落とし込まれ、幸福につながる行動を住民に促す。市全体の目標値も設け、毎年実施する市民アンケートで達成度を把握する。

■ 滝沢市幸福実感一覧表の抜粋 ■

(歳)	「やってみよう」の例
0	親などが、1日1回子どもを抱きしめる
6	好きな勉強やスポーツを親などに話す
18	インターネットで地域の情報を発信する
50	自分の散歩コースを持つ
65	地域の子どもたちに伝統・文化を教える

幸福度指標の導入は村制時代から検討されてきた。市制に移行してすぐの市民意向調査で、経済的な豊かさ以上に「人とのつながりを持った生活でこそ幸福を実感できる」という意識が浮き彫りになった。

熊谷和久企画政策課長は「どう行動すれば幸せを実感できるか。市民が主体的に取り組むことを達成度の数字以上に大切にしている」と話す。

<導入／岩手県>

岩手県は東日本大震災直後の11年4月、復興の原則に「一人一人の幸福追求権の保障」を掲げた。次期総合計画（19～28年度）に幸福度指標を導入するため、有識者による研究会を16年4月に設置。1年半の議論を経て今年7日、最終報告書をまとめた。

報告書は、経済成長が必ずしも幸福感につながらないという「幸福のパラドックス」に触れ、経済指標だけで社会状況を評価する限界や危うさを指摘する。

「岩手の風土に根差した独自の幸福の捉え方がある」と強調。策定した幸福度指標には、身近な人の幸福を望むなどの「協調的幸福感」という全国ではまれな概念を加えた。

研究会は幸福を考えるワークショップを簡単に開けるようなマニュアルやツールを開発し、県民参加を促す仕掛けもつくった。

研究会のアドバイザーを務めた京大こころの未来研究センターの広井良典教授は「一人で完結しない幸福の在り方を明確に打ち出したり、住民参画を重視したりするのは全国の幸福度指標でも先駆的試みになる」と評価する。

<始動／山形県西川町>

山形県西川町は23年度までの総合計画に西川版幸福指標の創設を盛り込んだ。16年に有識者らでつくる「里山社会・文化研究所」を設立し、「西川のような里山に生きるとはどういうことか」という根本から議論を始めた。

幸福指標づくりは「まち自慢運動」の一環。西川町は月山や朝日連峰に囲まれた豪雪地帯で、14年に実施した町自慢アンケートでは、人柄や月山、水が上位にランクされた。

柴田知弘政策推進課係長は「収入が低くても西川に生きる代え難い価値はある。それをどう指標に結びつけるか、町民と一緒に考えていきたい」と語る。

〔幸福度指標〕経済的豊かさを示す国内総生産（GDP）に対し、自然、健康、文化などを多角的に捉え、心の豊かさに重点を置く指標。アンケートで得られる「主観的指標」と、統計データの「客観的指標」を組み合わせるなどして、住民の生活実感から見える幸福感を測定する。結果は行政政策の評価や立案に活用する。ブータンは国家発展の理念として1970年代から国民総幸福量（GNH）を提唱している。2011年に経済協力開発機構（OECD）が「よりよい暮らし指標」、内閣府が「幸福度指標試案」を公表した。

◎東京・荒川区 ターゲット把握し対策／高知県 「らしさ」も評価項目に

幸福度指標を全国でいち早く導入したのは、東京の下町・荒川区だった。2005年、西川太一郎区長が「荒川区民総幸福度（GAH）」を提唱。13年から年1回、無作為抽出の4000人に指標に基づく幸福実感をアンケートし、政策形成や行政評価に生かす。

指標は、全体の幸福実感と「健康・福祉」「安全・安心」など6分野45項目の評価。「災害に強いと感じるか」などの問いに5段階で回答し、6分野の優先度、45項目の分野ごとの重要度も答えてもらう。平均回答率は約50%。集計結果はシンクタンクの荒川区自治総合研究所が分析する。

昔ながらの木造建物が密集し、地震や火災の危険度が高い荒川区。GAHによると、「安心・安全」の優先度は上位だが、防災性の幸福実感は低迷する。分析の結果、1人暮らしで居住5年未満の20～30代に「災害時の絆・助け合い」の実感が薄いことが分かった。

対策を検討した区は若い世代を共助の輪に加えるべく、ゲーム感覚で楽しむ防災訓練「あらBOSA I」を企画し、16年3月に1回目を開催した。大会運営を中学生に任せるなどし、若者や親世代が防災訓練に参加しやすい環境を整えた。

区自治総研の檀上和寿副所長は「幸福度の活用で、ターゲットを絞った事業が展開できる。客観指標だけでなく幸福という主観も定量化し、行政に反映させることが重要」と強

調する。

「高知県民総幸福度（GKH）」は地元の土佐経済同友会が主導し、16年10月に創設された。荒川区のGAHをベースにした指標は、誰とでも酒宴を楽しむ高知特有の「おきやく文化」を評価項目に加えるなど、地域性が色濃い幸福度だ。

一人当たりの県民所得など経済指標では最下位「常連」の同県。だが、住民の幸福実感は決して低くなく、「高知らしい豊かさ」をGKHとして形にした。地域住民の「真の幸せ」を測る物差しとしても幸福度指標は活用されている。

◎京大こころの未来研究センター・内田由紀子准教授に聞く／指標の分析継続に意義

「幸福度指標」が地域の新しい尺度として広がる背景や意義を、内閣府の「幸福度に関する研究会」委員を務めた京大こころの未来研究センター准教授の内田由紀子氏に聞いた。

「豊かさ」を示す指標はこれまで経済指標の国内総生産（GDP）が一般的に使われてきた。だが2000年代になると「GDPだけでは暮らしの豊かさを測ることができない」と限界が指摘され始め、幸福度の指標づくりが活発化した。

経済成長が見込めない時代を迎え、経済的な豊かさが人々の幸福感に結び付かなくなることが一因。経済的に豊かなくても、新たな生き方を模索して幸せを追求しようという意識が広がり、経済以外の側面も含め多面的に指標化していこうという動きになった。

日本では2010年、内閣府に「幸福度に関する研究会」が発足し、指標づくりが始まった。残念ながら政権交代により12年度末で活動が中止されたが、その後は人口減少問題を背景に、自治体による取り組みが進んだ。「自然が美しい」「食べ物がおいしい」といった地域の特性を指標化。「経済的には豊かなくても、幸せな暮らしができる町」と幸福度の高さを強調し、移住者の獲得などにつなげようとしている。

そもそも、幸福を外から捉えることは難しい。幸せかどうかは、表情や行動を見ただけでは分からないことも多い。だから指標を使って個人に評価してもらおう意義がある。

とはいえ、行政の取り組みにおいて、単に住民の幸福度の平均値を出すだけでは、指標を十分に生かしているとは言えない。平均値を他地域と比較したり、ランキングを付けたりするだけでは、一喜一憂で終わってしまう。

より大切なのはデータを丁寧に引き続き、詳しく分析することだ。性別や年代別の幸福度、政策分野との相関関係、人口動態や失業率など客観指標との関連性を把握し、地域の強みと足らざる部分を知ることこそ意味がある。前より良くなったとか悪くなったとか、時系列で変化を捉えることも欠かせない。自治体による幸福度の調査は辛抱強く継続してこそ、真価を發揮したものになるだろう。戦後日本に価値観の転換を迫った東日本大震災を踏まえ、河北新報社は創刊120年を迎えた2017年1月17日、次世代に引き継ぎたい東北像として「東北の道しるべ」を発表しました。災後の地域社会をどう描くのか。課題を掘り下げ、道しるべの具体策を考える特集を随時掲載します。

「東北の道しるべ」へのご意見、ご感想、情報をお寄せください。連絡先はファクス 022 (211) 1161。メールはmichishirube@po.kahoku.co.jp

<ひと物語> 困窮者支援は生涯の仕事 独立型社会福祉士・黒田和代さん

東京新聞 2017年9月18日

米袋、レトルト食品、缶詰、菓子から、さまざまな調味料まで。県西部地域でフードバンク活動を続けているNPO法人「フードバンクネット西埼玉」（FBN）の常設倉庫兼事務所（所沢市）には、取材日の九月初旬も、食材を満載した車両が次々に横付けされていた。

「ごく普通に見える街の中に、日々の食材を欲している人たちがいる。食べられるのに破棄される食材を寄付で募り、そうした人たちに送り届ける。それが私たちの役割です」

FBNのまとめ役で、社会福祉士・精神保健福祉士の黒田和代さん（53）が目を細める。視線の先には、食材の届け先からの御礼はがきが掲示されていた。

相談者（左）に入居予定物件の説明をする黒田さん＝所沢市で
「娘に一番我慢させているお菓子をありがとう！」
「子に、お米ぎゅーのお弁当を持たせてやれます」
「紙おむつや粉ミルクまで！ これから始まる離乳食もあると良いな」

黒田さんは、ホームレスなどの生活困窮者らを支援するNPO法人「サマリア」代表でもある。さまざまな人生の苦労を背負う人々に寄り添い生活支援に努める。「困窮者支援はライフワーク。携わり続けたい」

大学は教育学部。福祉とは何の関わりもなかった。転機は二十七年前。酸欠状態で生まれた長女に対し、医師から「障害が残るかもしれない」と宣告された時だった。「福祉というものが、普通の生活と紙一重のところにあると実感した」

障害者作業所のボランティア、認知症高齢者専門病院のレクリエーションワーカーとして奮闘。病院で「社会福祉士になれば」と薦められ、一念発起して国家資格を取得。その後精神障害者の施設に勤務したが、「施設という枠の中でできる仕事は限られる」と考え、独立型（フリーランス）社会福祉士に転身。専門職後見人や各種生活相談の相談員として活動しながら、二〇〇九年にサマリアを、一五年にFBNの前身を立ち上げた。

やりたいことは尽きない。「FBNではキッチンカーや公民館調理室を活用した無料の食事処を。サマリアではシェアハウスの形で障害者らが安心して暮らせる居場所を実現したい」

まだまだ少ないという「独立型社会福祉士のススメ」も熱く説く。「本当にやりたいこと、意義を感じることに取り組める。若い社会福祉士にはぜひ地域へ飛び込んでほしい」

黒田さんへの問い合わせはサマリア生活相談室（samaria@jewel.ocn.ne.jp）。（加藤木信夫）

<くろだ・かずよ> 1963年熊本県生まれ。早稲田大卒。埼玉県社会福祉士会所属の独立型社会福祉士。90年長女出産を契機に障害者支援に携わる。2003年社会福祉士、07年精神保健福祉士の国家資格取得。09年NPO法人サマリア設立。15年フードバンクところざわを設立、今年7月にフードバンクネット西埼玉としてNPO法人化。



障害ある子が迫力オケ 一宮で響愛学園7周年コンサート 中日新聞 2017年9月18日
迫力ある演奏を繰り広げる「シンフォニー」と一宮太鼓保存会、桜花学園高管弦楽団のメンバー＝一宮市東五城の市尾西市民会館で



二歳から高校三年までの知的・身体障害のある子どもに、音楽や美術教育を行っているNPO法人「響愛学園」＝一宮市時之島＝が十七日、同市東五城の市尾西市民会館で設立七周年を記念したコンサートを開いた。

コンサートを開いた。

同学園に通う障害者ら十六人でつくるオーケストラ「シンフォニー」が一宮太鼓保存会、桜花学園高校の管弦楽団と共演。ヨハン・シュトラウス一世の代表曲「ラデツキー行進曲」や、「ソーラン節」など、迫力ある演奏で聴衆を魅了した。

一宮市北方町北方の会社員木村彰良さん（62）は妻美幸さん（56）と鑑賞。「皆、生き生きとした表情だった。何かに打ち込むのはすばらしい」と話した。（高本容平）

「ダリア」もうすぐ見ごろ 町田で催し オリジナル品種命名も

東京新聞 2017年9月17日

町田市山崎町の町田ダリア園で、入園無料のイベント「かがやき祭り」が十六日開かれ、地域住民やダリアの愛好家らが訪れた。園が公募したオリジナル品種のネーミングも発表され、多彩なプログラムで盛り上がった。(栗原淳)

ダリアが見ごろを迎えるのを前に毎年開催している催し。園職員らが軽食販売の屋台を出したほか、地元の子どもたちによるダンスショーなどもあった。

ネーミング公募は今年で三回目。濃い赤が印象的な新種は「かがやきの夏」、振り返った細い花卉の「カクタス咲き」の花は「月の華」に決まった。

「ホワイトシンフォニー」と名付けた白の大輪に見とれる野口さん(右)＝町田市で



今年初めて、市と観光振興で協定を結ぶ日本自動車連盟(JAF)の会員を対象にネーミングを募集。白の大輪には「ホワイトシンフォニー」が選ばれた。命名した同市の主婦野口幸子さん(52)は「同じ白でも色味のグラデーションが調和していて美しい。品種名がずっと残ってうれしい」と喜んだ。

園では一万五千平方メートルの敷地に約五百品種、四千株のダリアが栽培されている。社会福祉法人が運営する就労支援施設の職員や利用者が市から管理を任せられ、品種の改良にも熱心に取り組んでいる。

見ごろは月末から十月中。JR・小田急町田駅からバスで「今井谷戸」下車。駐車場もある。問い合わせは同園＝電042(722)0538＝へ。

低体重児と母親のための母子手帳 静岡県が取り組み 阿久沢悦子

朝日新聞 2017年9月18日

改訂にあたって「当事者である母親の思いや目線を残してほしい」と話す小林さとみさん＝静岡市葵区

静岡県は今年度、出生時の体重が2500グラム未満の赤ちゃん、その母親のための母子手帳作りに取り組む。当事者らによる支援団体「ポコアポコ」が県の助成金を受けて、6年前に作った冊子の改訂版。不妊治療や高齢出産の増加などで低体重児の出生が増える中、母親の不安や悩みに応える。

ポコアポコが作成した母子手帳は「リトルベビーハンドブック」。代表の小林さとみさん(50)＝静岡市葵区＝は15年前、早産で双子の女儿を産んだ。927グラムと466グラム。出産後、「はい、お母さんと握手」と看護師が載せた娘の手は5本の指が、自分の爪の面積に収まった。「ショックでした。どうやって育てたらいいんだろう、と」

いんだろう、と」

小さい赤ちゃんは、発達もゆっくり。一般的な母子健康手帳には、赤ちゃんの月齢ごとに「おすわりができる」「ハイハイができる」などのチェック項目が設けられているが、「はい」にマルがつけられない、と悩む低体重児の母親も多かった。

2006年に熊本県が作った母子手帳を参考に、同じ立場の母親にアンケートをしたり、メッセージを募ったりして、76ページの冊子にまとめた。発達の記録は月齢ごとのチェックではなく、赤ちゃんが寝返り、おすわり、ハイハイなどができるようになった日付を書く様式。「その子なりの速度で成長している」ことを実感できる作りを目指したという。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

